

教科名	技術・家庭科	学年	第1学年	埴 豊
-----	--------	----	------	-----

《学習目標》

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

《年間授業実施計画》

月	単元名・教材名等	学習内容・項目等	学習ポイント・その他
4	○材料と加工の技術	・ 材料の種類と特徴について知る。	・ 適切な材料の選択ができる。
5		・ 材料と環境とのかかわりについて知る。	・ 製作品の設計ができる。
6		・ 身近な製品の材料の製造技術と加工技術について知る。	・ 適切な工具の選択ができる。
7		・ 日本古来の技術について知る。	・ 工具を正しく使用できる。
8		・ 防災の技術について知る。	・ 作品が製作できる。
9		・ 材料及び加工の特性について知る。	・ 製作工程が計画できる。
10		・ 基礎的な材料と加工の技術の仕組みについて知る。	・ 製作工程の振り返りができる。
11		・ 設計の進め方を知る。	
12		・ 設計図を読み取る。	
1		・ 機能を知る。	
2		・ 構造を知る。	
3		・ 材料を知る。	
4	○情報の技術	・ 加工方法を知る。	
5		・ 接合方法と仕上げ方法を知る。	
6		・ コンピューター実習	・ コンピューターによる製作品ができる。
7		・ 情報モラルの必要性について知る。	・ デジタルでの作品データの提出ができる。
8		・ 情報社会で人権などの権利を尊重する必要性を考える。	・ 情報モラルの理解を深めることができる。

《評価の観点および具体的な評価方法》

観点1「知識・技能」 観点2「思考・判断・表現」 観点3「主体的に学習に取り組む態度」

評価の観点	具体的な評価方法
観点1	・ 学習内容に関する定期テスト A評価→40点以上 C評価→19点以下 (50点満点) ・ 製作品 A評価→材料の加工ができる。 課題に沿った作品が完成できる。 C評価→未完成、未提出
観点2	・ 工具を適切に使うことができる。 ・ 課題を意識し、課題に沿った工夫ある作品ができる。
観点3	観点1から観点2を並べて AA BA (ABも可能性はあります) →A評価 AB BB CB CA→B評価 BC CC AC→C評価

＊家庭分野の成績と合わせて「技術・家庭」の成績が出ます。

《教科の約束事》

- ・ 技術室での授業はジャージ着用で行います。腕や脚を工具から守ります。
- ・ 1週間に1時間しかありません、忘れ物をしないように気をつけましょう。
- ・ タブレットは丁寧に使用します。故障や破損になると実習ができません。

教科名	技術・家庭（家庭分野）	学年	第1学年	中山 もも
-----	-------------	----	------	-------

《学習目標》

- 生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を見つけるようにする。
○生活について見直し、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
○よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

《年間授業実施計画》

月	単元名・教材名等	学習内容・項目等	学習ポイント・その他
一 学 期	A 家族・家庭生活 自分の成長と家族・家庭生活	・今の自分とこれまで ・わたしの生活と家族・家庭 ・家庭を支える社会 ・中学生にとっての家族	○家族・家庭の基本的な機能について理解する。 ○生活は家庭内や家族外の活動が支えていることに気づく。 ○家族には互いの立場や役割があり、協力することで家族関係をよりよくすることができることを理解する。
二 学 期	B 衣食住の生活【衣生活】 目的に応じた衣服の選択 日常着の手入れと保管 生活を豊かにするものの製作 持続可能な衣生活	・衣服で伝わるメッセージ ・自分らしくコーディネート ・つなげよう和服の文化 ・上手な衣服の選択 ・まかせて衣服の手入れ ・布の繊維に応じた手入れ ・めざそう洗濯名人 ・補修や収納・保管 ・製作実習 ・持続可能な衣生活をめざして	○衣服の基本的な機能について理解する。 ○和服の文化に関心をもち、和服の着方を知る。 ○衣服の状態に応じた手入れの必要性がわかり、適切な手入れができる。 ○衣服の素材に合った洗剤を選び、適切な量を使用できる。 ○ほころび直しやボタンつけなどの方法を知り、実践できる。 ○資源や環境に配慮した衣生活をおくるために工夫できることを考える。
三 学 期	B 衣食住の生活【住生活】 住まいのはたらきとこころよさ 安全な住まいで安心な暮らし 持続可能な住生活	・住まいのはたらき ・住まいの空間 ・家庭内事故への備え ・災害への備え ・持続可能な住生活をめざして	○住まいの役割を理解する。 ○快適に住もうための具体的な実践方法を理解し、よりよい住まい方の工夫ができる。 ○災害への備えの必要性を知り、住まいや地域における工夫を考えることができる。

《評価の観点および具体的な評価方法》

観点1「知識・技能」 観点2「思考・判断・表現」 観点3「主体的に学習に取り組む態度」

評価の観点	具体的な評価方法
観点1	「定期テスト、レポート、学習過程における技能の習熟状況、完成した作品」などを評価します。
観点2	「授業時のグループでの話し合い、プリントの内容、振り返りシート」など多面的に評価します。
観点3	「作業や実習、毎時間の学習への取組状況、作品の提出状況、家庭での実践記録」など多面的に評価します。

《教科の約束事》

教科の約束事

- 1週間に1度の授業なので、集中して授業を受けましょう。
- 教科書・ハンドノート・ファイルなどの勉強用具は絶対に忘れないようにしてください。
- 製作、調理などの実践的・体験的な学習活動を行います。
- 刃物類、ガス、火気などを取り扱って実習するため、安全に気を付けて取り組みましょう。
- 授業で学んだことを生かし、自立する力をつけるために、学習した内容を家庭で実践するようにしましょう。